

島根県沿岸における貝毒検査結果 (2011年度)

川瀬 遵・寺本彩香・樫本孝史・角森ヨシエ・黒崎守人・勝部和徳

1. はじめに

島根県沿岸で採れるイワガキ、ヒオウギガイ、ムラサキイガイの毒化状況 (麻痺性貝毒および下痢性貝毒の有無) を検査したのでその結果を報告する。

2. 材料および方法

2.1 検体

検体は2011年4月～2012年3月にかけて県下3地点 (隠岐海域、出雲海域、石見海域) から採取したイワガキ19検体、ヒオウギガイ16検体、ムラサキイガイ4検体の計39検体である。

2.2 検査方法

貝毒 (麻痺性および下痢性貝毒) 検査は「食品衛生検査指針 理化学編」(2005年、厚生省生活衛生局監修、社団法人日本食品衛生協会発行) に定める方法で実施した。なお検査に用いたマウスは麻痺性貝毒検査では体重19～21g、下痢性貝毒検査では体重16～20gで健康な ddy系の雄であった。

表1 イワガキの貝毒検査結果

採取地域 (産地)	採取年月日	麻痺性貝毒 (MU/g)	下痢性貝毒 (MU/g)
隠岐海域	2011/ 4/17	ND	ND
	2011/ 4/24	ND	ND
	2011/ 5/15	ND	ND
	2011/ 5/22	ND	ND
	2011/ 6/ 5	ND	ND
	2011/ 6/19	ND	ND
	2011/ 7/ 4	ND	ND
	2012/ 2/ 5	ND	ND
	2012/ 3/ 4	ND	ND
	2012/ 3/25	ND	ND
出雲海域	2011/ 4/15	ND	ND
	2011/ 4/23	ND	ND
	2011/ 5/15	ND	ND
	2011/ 5/23	ND	ND
	2011/ 6/ 6	ND	ND
	2011/ 6/17	ND	ND
	2011/ 7/ 1	ND	ND
	2012/ 3/ 4	ND	ND
	2012/ 3/25	ND	ND

ND:検出限界未満
NT:検査実施せず

3. 結果

3.1 麻痺性貝毒

隠岐海域および出雲海域のイワガキには、全期間を通じ毒化した検体は認められなかった (表1)。隠岐海域のヒオウギガイから0.18MU/g～0.70 MU/gの毒量を検出した (表3)。これらの値はいずれも規制値 (4.0MU/g (可食部)) 以下であった。なお本県においてはヒオウギガイにおけるこの程度の毒量は過去にも見られており、ヒオウギガイは年間を通して少量の貝毒を保有しているものと考えられる。

3.2 下痢性貝毒

イワガキ (表1)、ムラサキイガイ (表2)、ヒオウギガイ (表3) とともに全期間を通じ毒化した検体は認められず、食品衛生法違反となる事例 (規制値: 0.05 MU/g (可食部)) はなかった。

表2 ムラサキイガイの貝毒検査結果

採取地域 (産地)	採取年月日	麻痺性貝毒 (MU/g)	下痢性貝毒 (MU/g)
石見海域	2011/ 4/17	ND	ND
	2011/ 5/21	ND	ND
	2011/ 6/ 3	ND	ND
	2011/ 7/ 3	ND	ND

表3 ヒオウギガイの貝毒検査結果

採取地域 (産地)	採取年月日	麻痺性貝毒 (MU/g)	下痢性貝毒 (MU/g)
隠岐海域	2011/ 4/17	0.33	ND
	2011/ 4/24	0.20	ND
	2011/ 5/15	0.23	ND
	2011/ 5/22	0.24	ND
	2011/ 6/ 5	ND	ND
	2011/ 6/19	0.18	ND
	2011/ 7/ 4	ND	NT
	2011/ 8/ 7	0.43	ND
	2011/ 9/ 2	0.25	ND
	2011/10/ 2	0.39	ND
	2011/10/30	0.45	ND
	2011/12/ 4	0.70	ND
	2012/ 1/14	0.42	ND
	2012/ 2/ 5	0.36	ND
	2012/ 3/ 4	0.30	ND
	2011/ 3/25	0.37	ND